

伯耆国分尼寺・官衙跡の調査 (2)

平城宮跡発掘調査部

発掘調査は、昭和49年9月25日から同年11月20日の間、倉吉市教育委員会が実施した。本年度は国分尼寺地区、国分寺北地区、国分裏神社地区の三個所で、約3000㎡について行なった。

国分尼寺地区 過去2回の調査(昭和46, 48年度)で外周施設と内方主要部分の建物配置が判明しており、今回は補足的な調査にとどめた。あらたに建物3棟、南北隅の濠および柵列を検出し、ますます寺院の建物配置とは異なる様相を示してきた。

国分寺北地区 国分尼寺跡地区で検出した遺構が通例の寺院の伽藍配置とも異なり、尼寺跡でなく郡衙跡と考える可能性もでてきた。そこで国分尼寺跡を他に求めるとすると、『続左丞抄』の記載にある国分寺北側の平坦地の調査が必要になり、今回はじめて実施した。7棟の掘立柱建物、溝、道路敷などを検出したが、建物はいずれも小規模で、尼寺跡と考えられる遺構は認められず、国分寺あるいは尼寺に関連した付属的な施設とみられる。

国分裏北地区 昨年の予備調査で官衙跡(推定国庁跡)と推定していた地区である。今回は礎石根石列をとりかこむ東西および南北の溝(幅1.2m、深さ0.8m)を検出した。その規模は東西が111m、南北126mの区画である。この区画の外方で建物2棟と、これらの外部に大規模な濠(幅3m以上)の一部を検出した。この遺跡は内郭部と外郭部のある大規模な官衙遺跡と考えられる。倉吉市教育委員会「伯耆国分尼寺・官衙跡発掘調査概報」1975年参照。(参加者佐藤・吉田・岡本)

